

## 平成 28 年度 国立研究開発法人土木研究所「契約監視委員会」審議概要

- 1 日 時 平成 29 年 5 月 26 日(金) 15:00~16:30
- 2 場 所 (つくば)土木研究所 及び (札幌)寒地土木研究所
- 3 開催方法 つくば—札幌間でのテレビ会議
- 4 出席者 委 員 : 坂本委員長、小宮山委員、島田委員、千葉委員  
土研側 : 理事長以下、関係役職員
- 5 議 題 (1)平成 28 年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について  
(2)平成 28 年度契約案件の事後点検について  
(3)平成 29 年度調達等合理化計画(案)の点検について

### 6 審議の概要

#### (1)審議結果

- ① 平成 28 年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について  
自己評価の目標達成状況は、全て A 評価であるが、その点検内容について、妥当と了承された。
- ② 平成 28 年度契約案件の事後点検について  
随意契約及び一者応札の案件について、特に問題はないものと了承された。
- ③ 平成 29 年度調達等合理化計画(案)の点検について  
計画について、了承された。

#### (2)審議内容(委員からの主な意見等)

- ①平成 28 年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について
  - ・部分的には足踏み状態の箇所もあるが、全体的には改善の効果があらわれている。
  - ・積極的な早期発注の取組は、業務の質的向上につながり、非常に良いと思う。
  - ・早期発注の取組を拡大することで、より効果が期待できると思う。
- ② 平成 28 年度契約案件の事後点検について
  - ・随意契約や一般競争ではなく、「参加確認公募」を選択する際のルールは決めているのか。
  - ・「採算が合わない」というアンケート結果がある中で、低い落札率で受注された業務は

適正に履行されるのか。

- ・アンケート調査において、「受注の可能性が低い」「採算が合わない」という回答があるが、この選択肢から何を読み取ろうとしているのか。

- ・一者応札改善の成果は上がっていないが、できることは最大限実施しており、その取組を継続していくものの土研の努力だけではどうしようもない部分があるという説明をすべき。

- ・土研が決められることではないが、大きな枠組みの話として、制度設計を変える大胆な検討ができないか、例えば随意契約の要件を緩和できないか、特に高度な専門性を有する業務等を一般競争として発注することが本当に良いことといえるのか、随意契約を増やした方が品質の向上につながると思う。

- ・今後の方向性として、随意契約を正々堂々とできるようにした方が、アウトカム指標が上がると思う。

③ 平成 29 年度調達等合理化計画(案)の点検について

- ・全体を通じての話になるが、土研の社会的役割を考えれば、受注する業者のレベルアップとか品質向上をサポートしていくという側面もあると思っており、企画提案型について、数社が共同して受注しやすい環境を作るというようなことなど、改善の余地はないか検討してはどうか。